

会員と千葉県連盟をつなぐ

ちばニュース

2015年11月号



千葉県勤労者山岳連盟

Chiba Workers Alpin Federation

2015年11月1日発行 通巻271(毎月1回発行)

創立50周年記念講演

「自然保護セミナー」に

参加して下さい

1 1月号目次

・ 目次	2
・ 10月理事会報告	3
・ 会・クラブ紹介・かがりび山の会	4
・ 第4回 ハイキング委員会報告	5
・ 第32回房総ロングハイク案内	6
・ 50周年記念 自然保護セミナー案内	7
・ 〃 バリ島サンライズトレッキングを終えて	8
・ 〃 アグン山行報告	12
・ 全国自然保護担当者会議参加報告	14
・ 事故防止経験交流集会	16
・ 県連便り	17
・ 11月・12月予定表	18

表紙紹介

かがりび山の会は、創立20周年を迎えました。
創立以来、常に千葉県連の中心で活動を支えています。千葉県連は委員会活動が中心です。各会・クラブの代表が委員会に参加し、各種活動を計画・実行しています。常時、会員が30人から35人のかがりび山の会が多くの委員会に代表を選出するのは大変な事です。

会行事も盛んで、毎年実施している「開山祭」はユニークな行事です。
NPO法人「ちば労山ゆう」の役員を選出し、支援活動にも毎回多くの会員が参加しています。

表紙は、山仲間との登頂の喜びが伝わってくる利尻岳山頂でのワンカットです。

——編集者——

2015年10月度理事会報告

■開催日時:10月22日(木)19:00～

■開催場所:船橋市西部公民館

■出席:ちば山、松戸、遠足クラブ、茂原、船山、ふわく、東葛、シリウス、かがりび、あびこ、岳樺、こまくさ、ふれあい担当、自然保護、ハイキング、教遭、救助隊、会長、理事長、会計(山翠会理事兼任)、以上20名

■配布資料

- ・15年度事故報告
- ・事故防止・経験交流集会(案)

■議題

1. 委員会・救助隊報告

*教育遭難対策委員会(岡田賢)

1)事故報告

- ・仙丈岳における疲労蓄積(ちば山)
- ・岩手山木道における転倒、左手首骨折(船山)

2)事故防止経験交流集会

- ・会場が確保できなかったため、日程を変更し12/5,6で開催したい。すでに忘年山行等を計画している会もあり、申訳なし

*救助隊(吉田重)

- ・米子沢沢トレ、10/17,18、9名参加沢登りと読図、ロープワーク実施
- ・福島においてビパーク訓練、11/7,8(兼忘年会)
- ・12/6午後、装備棚卸し
- ・2016/1/19、総会。来年度はさらなるスキルアップと、体制の見直しを図りたい

*ハイキング委員会(桑原)

・10/27委員会予定、ロングハイクの詳細をつめる

*自然保護(菅井)

- ・11/14の自然保護セミナー、参加申

込者が少ないのでさらに協力を願いたい

*ふれあいハイク(岡田正)

- ・10/31、下見予定だがメンバーが足りてない(7～8名要)ので協力をお願いしたい

2. 50周年関連(広木)

1)バリ島トレッキング

- ・10/14～20で実施、24名参加
- ・残念ながら2件の事故発生—詳細は後日報告

2)房総の山50選

- ・鬼泪山でキックオフし、すでに実施している会あり→報告要
- ・登る山を連絡していない会は至急広木まで
- ・10/25、嶺岡愛宕山開放日。自衛隊基地になっているため普段は入れない。11時頃集合し交流を図りたい

3)自然保護セミナー

- ・取組みがかなり遅れているので、これから全力で取り組む

3. その他

- ・来年度連盟費算出の基となる会員数の報告。11月末現在の会員数(男女別)を吉田へ(12/10まで)
- ・今年度の会計を12月で済めるので、立替等あるものは早めに会計へあけて欲しい

■今後の理事会日程について

- ・11月19日(木) 場所:西部公民館
時間:19時より

「かがりび山の会」 紹介

会長 後藤 進

〔会の設立〕

平成7年7月7日（1995年7月7日）、前身の「山の会 らんたん」から分身独立しました。会員は、柏市・我孫子市・流山市・野田市及び隣接県在住で、一時は、会員の大量脱会で危機もありましたが、10月時点で会員35名（男性：20名、女性：15名）平均年齢62歳の組織となっています。（最高齢75歳、最低齢30歳）

〔創立記念行事〕

今年、創立20周年の節目を迎え、記念誌作成及び記念4行事（利尻山・礼文岳山行、創立20周年記念パーティ、八ヶ岳集中山行、海外登山）について計画的に実行中です。加えて県連創立50周年記念行事「房総の山50選」への参画を会誌（記念行事）に掲載することになり、主力2名の会員による「一筆書き50座踏破」を計画しました。達成に向けて会員間の任意サポートと一体となり、28“1/3最終日に踏破する予定で10/3（土）スタートしました。更に、会員の情報共有とイベント成功を目標に「踏破情報の発信」を各サポート終了時点において、2名の踏破者及びサポートした会員からの体験コメントをニュースにして、盛り上げています。

〔活動内容〕

年間の会山行は、28回前後（月2～3回実施）で、毎年4月上旬に開山祭なるイベントを市の指定公園で、1年間の安全祈願をキャンプファイヤーを囲みスタートしています。山行は、オールラウンドの形態を取っていますが、雪山に到っては、回数や難易度に低下傾向が伺えるようになりました（スキー含む）。しかし、春・夏・秋の3シーズンは、会・個人問わず縦走を含め活発です。また、「日本百名山」踏破、挑戦中の会員もおり全国に足を延ばしています。（完登者：5名、挑戦中：5名）

〔定期行事・会報〕

例会は、毎月第二・四水曜日に次回山行計画案内、山行実施報告、各部報告（総務部、広報部、山行部、県連関係等）、会員質疑応答、机上講習を実施しています。

運営委員会は、第三水曜日に年間行事の実施状況や新規含む取組の検討、会員からの要請や意見に応えられる打合せを実施しています。

会報は年4回、記念誌は5年毎に発行しています。

〔課題〕

会員への育成（指導）について、会指導者の高齢化や指導者不足、この部分については、他会の取組方法や県連との連携など対応策を検討していきたいと考えています。

新たな会員の募集について、入会者の殆どがホームページ経由となっていることから、内容の充実に引き続き努めていきたいと考えています。



開山祭



八ヶ岳（赤岳）集中山行

2015年度 第4回ハイキング委員会

2015年10月27日(火)

出席者 桑原、八巻、花井、高橋、高見、吉澤、中原 7名

1) 第19回ウィークディーマウンテン

50周年記念行事の一環として、吉尾さんの慰霊碑・慰霊山行実施しました。

反省 記念碑にお参り出来たし、一ノ倉も観れたし、良かった。

決算報告 ぎりぎりで成立 今度は各自でお参りする。

第20回ウィークディーマウンテン 次回検討する。

2) 第32回 房総ロングハイキング 募集50名 締切12月25日

2016年1月30日(土)、31日(日) 前回同コースで決定。七里川連絡路。

中原氏の下見の結果 変更有。(前回より近くなるコース下山予定)

東葛地区 バス及び前日のコース

- ① バス料金の高騰 今後も使用: 前日山行入れて14,000円に決定 25名
- ② スイセンロード周遊: 鋸南富山IC脇～地藏堂～江月水仙ロード～ばんや(決定)
尚、下見の上千葉の山50座の内「津辺野山」を登ってからロードに入る(予定)

3) ちばニュース掲載引き続き行いう事にする。タイトル(山への想い) 雑感

12月天野、1月吉澤、2月高見、3月佐川、4月中原、5月花井、6月高橋、7月加藤、
8月桑原

※ 前月の20日までに「ちばニュース」当分の間、会長広木様メールまでお願いします。

県連50周年記念行事。

- ① 千葉の山 山行 2015年10月4日(日) 鬼泪山 結団式 報告
11団体 66名参加 鬼泪山頂でバンザイ三唱で盛上った。
- ② 海外記念登山 バリ島サンライズ・トレッキング 24名参加 報告
2名程怪我人が出たが他は皆山行に観光に満足して帰国しました。
- ③ 愛宕山・自衛隊解放 10月25日(日) 報告 県連60名近い参加だった。
- ④ 自然保護セミナー 千葉文化センター(講師 う沢氏 他) 11月14日(土) 参加
- ⑤ 記念イベント 清和県民の森他 2016年10月 予定
- ⑥ 記念誌発行 (50年のあゆみその他) 記念イベントまでには発行

※NPO法人「ちば労山ゆう」支援活動 10月は中止

2015年11月は実施しますので参加募集しています。

その他

次回委員会 2016年1月12日(火) 18:00～ 県連事務所

第 32 回 房総ロングハイキング募集

主催 千葉県勤労者山岳連盟ハイキング委員会

日時 2016年1月30(土)～01月31(日) 一泊二日 (当日参加可)

集合 七里川温泉：沖津屋 30(土) なるべく 15時30分迄集合

31(日) 当日参加 6時00分集合

君津市黄和田畑 921-1 電話 0439-39-3211 フリーダイヤル 0120-397428

31日コース 七里川温泉脇～石尊山～麻綿原～一杯水林道分岐～W0(ツクバネ樫目印) 入口～
(東大演習林) 大平歩道入口地点～W15：烏帽子山々頂～W33：硯石分岐～向峰歩道
～鶏毛山W45～民地～坂本駐車場ゴール 歩程約8時間30分(休憩1時間30分含む)

25,000/1 地図 「上総中野」「安房小湊」

募集人員 60名位

費用 6,000円(一泊二食と弁当、移動) 当日参加1,000円(弁当、移動、)

締切 12月25(金) 各会責任者へ申し込む

直接電車で参加の方

電車時刻(往) JR久留里線 木更津発 13:01 上総亀山着 14:08

々 15:48 々 16:54

上記着の時刻に合わせて送迎車が出ます。

自家用車：直接七里川温泉に来て下さい。スペース5台位(出来ればJRでお願いします)

行動予定

01月30(土) 15:30～ 受付開始

17:30～ 挨拶、ガイドンス(日程、コース説明)

18:30～ 夕食、交流会後就眠

01月31(日) 5:00 起床、掃除、支度

5:30 朝食(弁当を受け取る)(食事は自由)

6:00 ロングハイク出発(当日参加者は時間厳守)

14:30 坂本駐車場着(JR、車の方はバスで送迎)

電車時刻(復) 安房天津駅 15:00発：千葉16:50着

安房天津駅 16:21発：千葉17:42着 16:58発：千葉18:46着

尚、東葛地区(東葛、松戸、柏、我孫子)はバス利用して、前日軽登山してから
集合地(七里川温泉)に行く事にしました。14,000円(バス代、1泊2食 弁当、)

行先 江月水仙ロード(「津辺野山」山行(案))

二日目 合同山行

*各会まとめて、申し込み先 ハイキング委員長 松戸山の会 桑原 年一
(TEL、FAX・メールで)

申し込み問合せ連絡先 ふわくハイキングサークル 実行委員長 中原 紀代治
(TEL/FAX 0475-34-4757)

千葉労山創立50周年記念講演



自然保護セミナー



主催 千葉労山

ちばの自然と

いのちを守る

- ・開催日 2015年11月14日(土)
13時30分～16時30分
- ・会場 千葉市文化センター・3階セミナー室
千葉市中央区中央 2-5-1
043-224-8211
JR千葉駅東口より徒歩10分



- ・講演 「房総半島の地形景観とその成り立ち」
 - ・講師 八木 令子 博士 千葉県中央博物館地学研究科
- ・記念講演 「千葉労山の自然保護運動の歴史」
 - ・う沢 喜久雄氏 ふわくハイキングサークル名誉会長
千葉労山 元自然保護委員長

千葉労山は、創立以来「ふるさと房総の自然を守る」運動に全力で取り組んで来ました。創立50周年の節目を、自然保護の歴史に学び、房総の自然の現状を見つめ、この素晴らしいふるさとの。自然を守る運動を引き継いでいく、出発の節目にしたいと思います。

自然保護セミナーは、自然保護の歴史と取り組みに学び、自然を守る運動を風化させないために実施します。
多くの会員の参加をお願いします。

問い合わせ・参加連絡は 広木 国昭まで (danphiro@zpost.plala.or.jp)

県連創立 50 周年記念海外登山 『バリ島サンライズ・トレッキング』を終えて

安彦秀夫（東葛山の会）

日程：2015年10月14日（水）～20日（火）＜6泊7日＞ 20名
14日（水）～19日（月）＜5泊6日＞ 4名

参加者：団長：廣木会長（ちば山）、CL/企画：安彦（東葛）、
SL：村尾（ちば山）、広川（松戸）、吉武（かがりび）
＜内訳＞ちば山5、松戸4、東葛4、こまくさ3、らんたん3、ふわく2、
シリウス1、茂原1、かがりび1（男性14名、女性10名）

上記二つの日程で、参加者24名が、赤道直下のバリ島（インドネシア）の『山』と『世界遺産』、そして『バリ舞踊』などを満喫してきました。

2014年11月13日（木）開催の『県連創立50周年記念事業第3回実行委員会』で、海外登山として『バリ島サンライズ・トレッキング』を、2015年9月～2016年8月の期間に、日程4～7日間で実施することを提案し、決定されました。

下見を全く考えていませんでしたが、会の何人かから『下見を是非実施して欲しい』と強く言われ、急遽下見実施に向けて12月下旬より具体的調査を開始しました。

4月8日（水）～14日（火）で下見実施を進めていましたが、直前になり、『現地寺院の祭礼のため、4月末まで登山できない』と連絡があり、急遽中止にしました。

早急に下見をしたいことより、5月13日（水）～19日（火）に実施することにし、東葛山の会の10名で実施しました。（下見については、『ちばニュース7月号』参照）

下見実施後から今回までの『経緯』と『裏話』を主に報告させていただきます。
各山の登山の様子などについては、他の参加者に報告させていただきます。

<1> 募集要項決定そして参加者募集…

下見時にお世話になった旅行会社へ実施時期を相談したところ、乾期から雨季へ移る直前の『10月』を勧められました。

次の要項を『ちばニュース6月号』に掲載し、募集をスタートさせました。

- ・日程：10月14日（水）～20日（火）＜6泊7日＞ 他に1日早い帰国もあり
- ・費用：約20万円（飛行機・ホテル・専用車・登山ガイド・観光・食事等含む）
- ・募集人数：30名（先着）
- ・申込方法：参加希望者は、私までメールで申込書を請求し、必要事項を記入し、メールで正式に申し込む。併せて、パスポートコピーも提出する。

当初の予想に反して、参加申込みの出足が悪く、『ちばニュース7月号』でも参加を呼び掛けました。更に、締切日を延期し、『ちばニュース8月号』でも…。

その結果、9会の23名から参加申込書が届きました。（私を含めて24名）

3日目の『アゲン山』登山は、当初、『主峰』と『南峰』の2コースを考えていましたが、『南峰』希望者が4名と少なく、『主峰（2名）』及び『フリータイム（2名）』に変更していただきました。

<2> 旅行会社との交渉…

当初の締切日（7/12）時点で23名でしたので、旅行会社へ23名で飛行機やホテルの手配等をメールにて正式依頼しました（参加申込書&パスポートコピー添付）。

その後、1名を追加し、総勢24名（男性14名、女性10名）になりました。

具体的な日程（登山、観光、宿泊地など）を、旅行会社担当者と何度もメール交換したり、直接お会いしたり、電話で相談したりして煮詰めていきました。

具体的な内容（行程）が決まった後、『基本旅行代金（包括料金）』の見積書を、8月14日に提出していただき、詳細を確認し、若干修正後、金額を了承しました。

- ・参加日数は…？
- ・3山の中で、どの山に登山するか…？
- ・フリータイム希望者は、オプションツアーに参加するか…？

以上の違いにより、参加者個々の『基本旅行代金』を確定し、私から参加者の皆さんにメール配信しました。

＜旅行会社：株式会社サザンリゾートワークス TEL 03-6406-8881＞

＜3＞ 説明会開催…

9月10日（木）夜、船橋市西部公民館にて、旅行会社（小室会長）の同席のもと、21名の参加で実施しました。

私から、下見で経験したことを参考に作成した『一般的な注意事項』、『全体の行程表』そして『登山行程表』等について説明をしました。

また、旅行会社（小室会長）から、『注意事項』や『海外旅行保険』の説明を頂き、その場で、希望者には保険の加入手続きをしていただきました。併せて、フリータイム希望者には、オプションツアーのコース及び参加者を決定していただきました。

質疑応答後、『請求書金額』に、『オプションツアー代金』及び『海外旅行保険金』を加えた金額を、9月14日（月）までに振込みすることをお願いし散会しました。

＜4＞ 飛行機 e-チケット及び海外旅行保険証…

10月7日（水）に、旅行会社から、チケットと保険証が、佐川急便にて各参加者自宅宛てに送付され、翌日8日（木）には、無事届けられたようです。

事前に、『発送連絡』を参加者全員にメール配信し、『届かない場合は連絡をください…』と付け加えました。多くの参加者から『届きました！』というメールが届く中、2名から問い合わせ（メールと電話）がありました。

1) 9日（金）に、『保険証は届いたが、e-チケットが同封されていなかった！』

e-チケットの控えを、私が全員分持っていたので、メールにて送付するとともに、良く調べることを連絡しました。その結果、『封筒にへばりついていました…』で、落ち着きました。封筒を直ぐに廃棄しなくて良かったですね。

2) 10日（土）に、『未だ届いていないが…？』の電話がありました。

旅行会社は休みのため、小室会長の携帯電話（インドネシア）に連絡を入れ、状況を説明し、担当の帆足さんの携帯電話番号を教えてください、連絡を取りました。折り返しで、『佐川急便が配達先間違いで持ち帰り、本日10日午前中に配達されました』という連絡がありました。直ぐ、問合せ者に電話をし、無事届いたことを確認しました。やれやれ…。

e-チケットは私が持っているのでメール送付対応可能ですが、保険証については、最悪、出発当日成田空港まで帆足さんに持参していただく…ことも考えました。

＜5＞ハプニング続出…！？

現地でハプニングがありました。いくつかを紹介します。

1) 2日目のバトゥール山下山で、麓の林道を歩いている際に、細かな浮石で滑り、転倒し、『右足骨折』の事故がありました（女性）。救急車にて病院へ搬送し、即入院し、翌日手術をしました。

幸い、回復状況が良かったようで、一緒に帰国することができました。

保険に加入していたので、全て現地窓口の旅行会社の方に手続きなどをしていただき助かりました。海外旅行保険加入の意義を再認識させられました。

- 2) 2日目夕方、ホテル近くのモンキーフォレスト（猿の棲む森）で、猿にバッグのファスナーを開けられ、『パスポート』を盗られました（男性）。気が付いたのが、翌日のため回収できませんでした。『一時帰国用のパスポート』を取得し、一緒に帰国することができました。（実は、私も、9年前に、インドネシアのジャカルタ近郊で、『車上強盗』に遭い、パスポート、eチケット、現金、技術資料等の入ったバッグを盗られました。命を取られなかったのでよし…と考えました。）
- 3) 3日目のアグン山下山時に、岩場で転倒し、『右手薬指骨折』という事故がありました（男性）。個人で保険に入っていたので、個人で病院に行き、処置をしたようです。海外では、語学達者でなければ難しいですね。
- 4) 4日目のサヌールのホテルで、チェックインし、『部屋に入ったら、他の客が既に入室済み…』という連絡があり、私も一緒に確認した後に、フロントに行き、状況を説明し、部屋を変更して貰いました（当然！）。
- 5) 同じホテルで、部屋のカードキーが使用できないケースが多発して再発しました。その都度、フロントに行き、状況説明し、最後はキーを代えて貰いました。
- 6) 同じホテルで、電気ポットが設置されていない部屋があり、フロントに依頼して配置して貰いました。スリッパもなく、同様に依頼して持って来て貰いました。
<(4)、(5)、(6)が、連続で発生したため、私は、翌日の登山に備えて早く仮眠したかったのですが、ベッドに横になれたのは、遅くなってからでした。今回利用したホテルの中で、最も大きくランクが上であったにもかかわらず、フロントの接客態度が非常に事務的で印象が悪かったです。残念でした。(私見)>
- 7) 5日目のバトゥカル山下山後の昼食で、『今日は一人で、「ビル・ビンタン・ディンギン・ブサー（大瓶の冷えたビンタンビール）」を1本ずつ飲みたいね！』と皆で話し合いながら入ったレストランで、こんなことが待っているとは全く想像すらしませんでした。それは…、『在庫、小瓶5本のみ』でした。10人で均等にグラスに分けて、最後の山の無事下山を祝し、乾いた喉を潤しました。
- 8) 6日目、空港でのチェックイン時に、『eチケットが見つからない！』という人が現れました。私が全員分を持っていたので、難なくクリアー…。でも、それだけでは終わらなかったのです。それは…、搭乗直前に、搭乗ゲートが『9B』から『1B』への変更アナウンスがあり、空港の端から端までの徒歩での大移動を余儀なくされたのでした。実際は、『1A』でした…。バリ島の山・観光三昧の余韻に浸る時間もない、慌ただしい最後の夜でした。
- 9) 7日目、九十九里海岸上空で、飛行機が旋回しました。一瞬、9年前の県連創立40周年記念海外登山の『韓国：雪岳山（ソラク山）』の『成田空港着陸回避そして羽田空港への変更緊急着陸』が、頭を過ぎりました。幸い、天候は悪くなく無事着陸でき、一安心しました。

<6>登山ルートは土埃…

5月の下見をした際の『登山コースの印象』の一つに、『滑り易く、土埃が舞う』がありました。心配事の一つでした。

ところが、今回の登山では、その印象をはるかに超える『滑り易さと土埃の量』でした。特に、アグン山の樹林帯のルートには、粉状の土・砂礫の堆積が半端ではなく、一步進む度に土埃が舞い上がり、その中を、ヘッドライトを頼りに、列をなして歩くのですから、舞い上がる土埃の量は半端ではなかったと思います。その証拠に、下山後の鼻の中は真っ黒（真っ茶色）でした。

このような悪戦苦闘の登りのため、時間と体力を使い、更にとんでもない強風が森林限界を過ぎた砂礫帯でも吹き荒れ、主峰が手に届く所に見えていましたが、ナイフエッジのような砂礫の道を歩くことは危険と判断し、手前の『第1ピーク』で引返しました。救いは、『影アグン』と前日登ったバトゥール山等の眺望が得られたことです。

<7>最後に…

風光明媚なカルデラ湖の世界遺産バトゥール湖畔に聳える『バトゥール山』24名全員、バリ島の最高峰『アグン山』12名、第2高峰『バトゥカル山』10名と、多くの参加者にトレッキングを楽しんでいただけたことと思います。

また、世界遺産や景観の優れた寺院の見学、バリ舞踊3種類（レゴン、ケチャツ、バロン）の鑑賞、そして海や湖沼の大自然なども満喫していただけた…と思います。

登山をされた人には、十分な睡眠も摂れない中を、気力を振り絞られて連日挑戦していただきました。疲れたとは思いますが、『やればできる…という自信』と、『やりきった…という達成感・満足感』を得られたのではないのでしょうか？

フリータイムを選択された方には、思う存分、赤道直下の自然や文化などに浸っていただけたことと思います。



10/15 バトゥール山



10/18 ケチャダダス見物後

私が山行を企画する際に常に心がけていることがあります。それは、『山100%、そして観光100%を楽しむ!』です。(決して50/50ではありません。)

更に、『他の参加者は、何をすれば満足するだろうか?』を考える前に、『自分は、いかにして楽しむか?』を優先させています。

自分が満足できないで、他の参加者が満足するはずがありませんから…。

参加者の皆さんのご協力のもと、全員が無事帰国できてホッとする中、取り組み始めから実施までの事を思い浮かべながら、この原稿を作成しました。

参加者の皆さん、そして、快く参加を許可していただきました各会の皆さん、ありがとうございました。また、このような機会を頂きました県連の廣木会長はじめ役員の方々に感謝します。旅行会社の親身な対応に改めて感謝します。

<追記>

来年2016年が、県連の『満50歳』の年です。そして、私の所属する東葛山の会の『創立40周年』の年でもあります。具体的なことは何も決めていませんが、秘かに記念海外山行に想いを馳せています。関心のある方は、是非ご一報を頂きたいと思えます。少なくとも今回のような連日の夜間登山は考えていません。今の所は…。

(2015/10/30/Fri.)

☆ 創立50周年事業の大きな柱である「バリ島サンライズトレッキング」が終わりました。安彦CLの経験豊富なリーダーシップに敬服し感謝いたします。下見を実施していただいた「東葛山の会」の皆さんにお礼を申し上げます。そして参加者全員と共に、素晴らしい思い出を共有して千葉県連の力にしたいと思います。
——千葉県連 会長 広木国昭——

県連 50 周年記念アグン山山行報告

2015 : 10 : 21 記

記録者) ちば山の会) 田中孝平

(山 域) : インドネシア バリ島 アグン山 (3142m)

(コース) : ペングブカン寺院～山頂～ペングブカン寺院 (往復コース)

(日 時) : 2015 年 10 月 15 日深夜～16 日

(天 候) : 快晴 (強風・砂塵が舞い息苦しい状況)

(参加者) : CL 安彦・A 班 田中・菅井・村尾・湯浅・佐藤 (誠)・市橋・佐藤 (か)・B 班 広川・

杉山・青山・吉武・サンライズワールド (旅行社) 小室 [各位の敬称略で記載]

現地ガイド 4 名 (A 班プトウ・ニョマン 2 名) (B 班 ガイド氏名記憶無 2 名)

(山行タイム) : 15 日 (木) 現地時間 (日本より 1 時間遅い) : 例 (日本 4:00⇒バリ 3:00)

ホテル「ペルティウィ・リゾート&スパ」21:30 発＝ペングブカン寺院 (登山口) 11:15 着

16 日 (金)

登山口 15 日 11:30 発～山頂 P1 (登頂 11 名 : 先頭 7:30 着 最終 11 人目 7:55 着) 8:10 発
～途中で引き返し者 3 名 [MU・YU・SA (S)] を合流～岩小屋風岩溝 9:15 着 (食事と
お茶の大休憩) 9:35 発～ペングブカン寺院 (登山口) 13:00 着「全員」の下山完了する。

登山口チャーターバス 13:30 発＝レストラン (昼食) 14:30 着 15:30 発＝ホテル 17:00 着

(山行報告) : 15 日の夕方よりホテルにて仮眠するが、寝付けずに横に成るだけで集合時間となり身支度を済ませチャーターバスで登山口に向け出発する。

深夜に登山口へ到着すると現地ガイド 4 名 (長靴履き) が待っており、ガイド頭により線香とお供えにより、お祈りが行われ旅行社の小室さんを加えて 13 名+ガイド 4 名で登山を開始する。(ガイド頭のお祈りは数か所で行われた。)

16 日の 0 時を跨いででの登山であるが、風が強く火山灰の砂塵と強風の中では暑さを感じず 暗闇の中をただ黙々と前進するのみである。(マスク無では耐えきれない砂塵であった。)

中腹までの登りは火山灰の固まった堅い地盤に火山灰砂と砕けた小石が混ざり滑り台の様に歩き辛いが要所々にツタを使いロープもどきのお助け紐と布を裂いて付けた紐が付けられては居るが、鎖に慣れた我々には

実に心もとない物であった。

登山途中ではガイドの足が速い為にユックリ歩いての意味で「プランプラン」と声掛けをしながらひたすらライトの明かりに照らされる滑りやすい登山道を上へ上へと登る。樹林帯を抜け 5:30 頃より段々と明るく成り 6:00 にはライト無し状態で歩ける様になって来た。ただ登り一方の道で、ふと後方を振り返ると「影アグン」がクッキリと三角形に映し出され眠い目と心が引き締まり元気を取り戻し、強風の中で砂塵に耐え寒さに耐えながら上部の岩場地帯に進んで行くことになる。

岩場地帯に入ると山頂部が中々見えなく一つ登ると、またその上に稜線が続く道のりに夜通しの歩みで足が上がらないが気力で登って行くと山頂稜線に出る手前に 3m 位の深さの岩溝があり此処で休憩して後続を待つが、長蛇の列と成り中々皆は到達しない、

先頭部3名とガイド1名で山頂を目指すこと40分位の所に60cm位の4人が入れる岩影がありガイドと相談(手話の様に)してこの先は風よけが無いのでここで(TAN・ITI・SUG・ガイドガイドのプトウの4名)は後続を待つことにしガイドの持参テルモモスの御茶を頂ながら食糧を口に入れ休むこと。20分強でHIRさんYOSさんら後続が来て再び登り出す。

ここから1時間ほどで山頂を形成する頂き稜線に出てP1山頂に合計で10名が到達する。

この先に片道1時間余りで最高地点の頂まで行けるが、強風と途中のナイフエッジの為に、CL判断によりP1を到達点として下山に移る。記念撮影の後に下山していくと途中で残る3名と後続ガイドに合流し全員で強風の中で注意深く下山をして行く。3mの岩溝まで下りて大休憩を行い、食事とガイドの入れてくれたコーヒーで体を温め、此れより長い下山路(往路)を戻ることになる。1時間ほど岩場地帯で慎重に皆が下りて行くが降りる速度の違いから前半組にガイド2名・後半組にガイド2名が付く形で下り特に弱い方にガイドが専属の形に成りどうしても、長い列に成って行く。そんな中で推定2,800m付近にてMURさんが3m位の岩場を下りる際に足を滑らし前のめりに1回転して転落、止まらずに再度後方宙返りの様にもう1回転して仰向けに緩斜面にて止まる。本人は何が起きたのか寝たまま空を見上げ虚ろな表情であった。4m位上に居た私が声を掛け、足は大丈夫か頭は痛くないか?と聞くと大丈夫と返事があり、側に行き身体を確認したところ擦り傷や、ぶつけて痛いところは有るが、頭と足には異常が無いと判りホッと一息

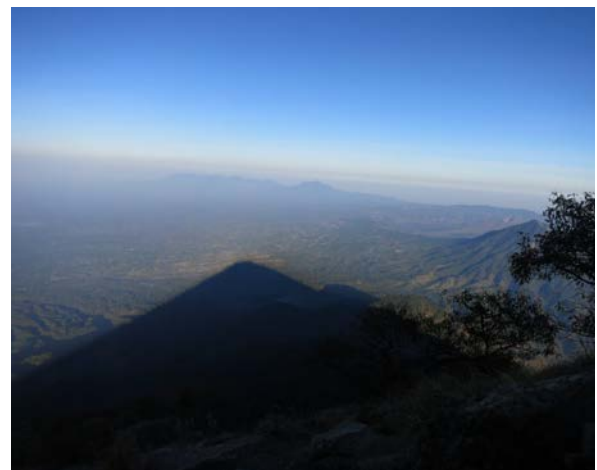
をつき、念のため痛い所が有ればすぐに言う様に指示をして彼をカバーしながら下山に掛かる。

1時間ほど歩くと右手首が少し痛いのと右手中指の先端(第1関節~第2関節辺りが動かなく痛むと訴えがあり、シップとテーピングで固定して下山を慎重にして行く。

中間部よりは疲れや寝不足と道の悪さで何度か転倒をする者も出たが、全員が登山口まで下山する事が出来た。

ホテルに戻り、1夜明けて怪我した右手の様子を見たが指が青く腫れ、痛みがあり動かせない状態であったので即、病院に行く事に決め保険会社に連絡し現地の病院を指定頂き受診した。結果は指の骨折と判って仮固定をして頂き腫れを引かせる薬を処方して貰い、帰国後に正式な治療を行なう事で病院を後にした。

MURさんは旅行保険については個人で入って居た為に、自ら電話をして保険会社や病院と対応していた。(私では英語が不慣れで無理があり旅行会社の連携した保険で良かったと感じた。)当然ながら彼は3山目のバトゥカル山は登山を棄権しホテルで休養し20日に皆と共に帰国をした。



影 アグン山

2015年全国自然保護担当者会議 参加報告

2015年10月23日

まつど山翠会 高橋和子

滋賀県で開催されました日本勤労者山岳連盟・自然保護委員会主催の自然保護担当者会議に参加いたしました。テーマは「全国いっせいきリーンハイクの今後のあり方について」です。

- ・ 日程：2015年10月17日（土）～18（日）
- ・ 場所：滋賀県・希望が丘文化公園・青年の城
- ・ 参加者：52名（滋賀県連 16名）

第1日目は、基調講演と一般講演、地方連盟担当者報告

1. 基調講演①：労山清掃登山・クリーンハイクの歴史と自然保護活動

（日本勤労者山岳連盟理事長） 浦添嘉徳氏

1974年に労山全国連盟に自然保護委員会が設置されました。その後、全国連盟として登山者の手による自然保護運動の啓蒙活動を目的とした「自然保護強化月間」を設定し、清掃登山・クリーンハイク運動を呼びかけたのが、「全国いっせいきリーンハイクのはじまり」です。

滋賀県では、1984年「第5回全国登山者自然保護集会」が開かれ「清掃登山の発展と可能性」についての基調報告が行われ、現在の清掃登山・クリーンハイク運動につながりました。

清掃登山・クリーンハイク運動は、登山者だれもが取り組める自然保護運動であり、多くの登山者が清掃登山に参加することによって、自然保護問題を考えるようになります。清掃登山を自然保護活動の「入門コース」として位置付けて取り組むことが大事です。

労山の活動は、42年間継続し近年約1万人の登山者が参加しており、山岳団体の中でも貴重でまれにみる自然保護活動なのです。



2. 基調講演②：富士山クラブ活動報告

（富士山クラブ理事・事務局長） 青木直子氏

富士山クラブは、活動開始から17年目に入り、6名のスタッフで運営、全国に約1,000名の会員がいます。環境保全活動として、「ゴミを拾う・捨てない・捨てさせないプロジェクト」「外来種駆除活動」「出張講座」「リーダー要請・スタッフ講習会」などを行っています。

課題は、富士山登山者の多くが初心者であり、環境保全活動の趣旨が浸透しにくいいため、常にゴミがなくなるということです。2014年は登山者数234,217人、年間活動回数84回、参加人数4,972人、ゴミ回収量60トンでした。

森林保全活動、広報活動、ネットワーク活動も並行して実施し、地域の市民団体、協議会、行政などと、意見交換や情報交換を通じて活動成果を共有し、協働による活動を推進しています。

3. 一般講演：世界の山岳清掃活動・自然保護活動

(全国自然保護委員長・国際部長) 花村哲也

世界からゴミを無くす運動、クリーンハイク活動は、世界的な運動となって拡大しています。

オランダの「山を救おう」という団体は、ヨーロッパアルプスなどでゴミ収集を大々的に行っています。米国の「跡を残さない」団体は、子供、ハイカー、高所登山家にゴミの持ち帰り運動を実践教育として行っています。

ネパールの高所登山のゴミ問題では、ヒマラヤ高山域に世界の登山家が60年にわたり残してきた酸素ボンベなどのゴミがあり、そのゴミ拾いによりやがて登山関係者や当該国が力を入れ始めました。ゴミを取り除き処分場所まで運ぶにも、ヘリやロバ運搬が必要で莫大なお金が掛かるため、ネパールでは、寄付金や入山金を使って、60年間の蓄積ゴミの処理が徐々に始まっています。

4. 地方連盟担当者報告

- ・ 大阪：大峰山、弥山、明星ヶ岳の立ち枯れ調査を実施しました。明星ヶ岳は特にひどく、定点観察を行っています。1970年代は、オキシダント濃度が高かったことからその影響が現在の立ち枯れとなっている可能性がある、と考えています。
- ・ 兵庫：「兵庫の山からゴミを一掃する運動」も35年を越え、これから50年を見すえた活動を展開しようとしています。「母なる山六甲山」は、江戸時代後期から明治初期にかけて、山麓住民が燃料として木を切ったため禿山となってしまい、明治35年から砂防植林が始まりました。そのような変遷を辿りながら、これからの山岳自然保護の取り組みについて検討しています。

※ 第2日目は、分科会（3テーマを3グループに分かれて議論）

- ① テーマ：多様化する山岳スポーツ活動と登山の共生（トレイルランニング、ウォーキング、ボルダリング、マウンテンバイクなど）（参加人数：8名）

議論結果：安全性が課題であり、登山者とランナーを分離するための道の整備など、行政に働きかける必要があるでしょう。長野県ではトレイルランに林道を使用しています。

- ② テーマ：山の自然を汚さず傷つけない登山・登山路の整備など山岳自然保護（参加人数：16名）

議論結果：クリーンハイクを継続することでクリーンを維持し、自然保護を考え・伝えることが出来ます。また、行政には日ごろからの働きかけや、一般の人への参加呼びかけも重要です。

自然を傷つけない登山のためには、登山者に“できること情報”を発信して意識改革を促す方法があります。具体的には、トイレ時のティッシュペーパー問題、高山植物の根を守るためのストックのキャップ、キャンディの袋やペットボトルを落とさないための工夫など。

- ③ テーマ：地球温暖化と高山植物や野生鳥獣の変化、被害実態（参加人数：8名）

議論結果：「地球温暖化」という背景が大きいため、難しいテーマでした。

雷鳥の減少、キタキツネやイノシシの害、シカ害は東北まで広がっているという話もあり、環境省からの情報に注視するなど、今後の観察が必要と考えます。 以上

2015 事故防止・経験交流集会の案内

千葉県勤労者連盟・教育遭難対策委員会

当連盟での事故件数は以前よりは減少しているものの、昨年は6件 本年は9件になっており、一部重大事故も発生しています。更なる減に向かって、各会で事故防止へ向けての取り組みを継続願いたく考えます。

そして、次年は県連創立50周年を迎えることとなり、それらへの取り組みの報告等も併せ行うことも予定します。

他 下記の内容にて開催しますので、各会会員の積極的な参加を期待します。

記

- 1) 主催 千葉県連盟・教育遭難対策委員会／協力：千葉県連盟救助隊
- 2) 日時／場所 12月5日(土)－6日
5日 13:00<12:30 受付開始>－6日 11:30 終了
船橋県民の森 さざんかの家(宿泊研修棟)
- 3) 内容 12/5 ①今年度の事故に関する取り組み報告 13:00－14:20
船橋勤労者山の会 岳人あびこ 山の会らんたん ちば山の会
報告15分+質疑5分
②各会での事故防止取り組み報告 14:20－15:00
かがりび山の会 ちば山の会
<休憩> 15:00－15:20
③山装備のメンテと最新情報 ヨシキスポーツ 15:20－16:40
雨具／シュラフ／靴のメンテ
お薦め用具
Q&A
④50周年関連 16:40－17:30
バリ島トレッキング報告 50周年実行委員会
房総50選取り組み概要 50周年実行委員会
⑤夕食／各会紹介／交流会 18:00－20:30
山食事の実技(コッヘルでご飯を炊く：希望者には、米／コッヘル／ガス
ヘッド／ボンベを持参して頂ければ、炊き方を指導します。)

- 12/6 ⑥セルフレスキュー実技 県連救助隊 8:00－11:30
ツェルトの使い方(ビバーク訓練)
7点セット使用法(スリング 60cm2本 120cm1本 カラビナ2<環付き1> 補助ロープ 6~8mm*10m ツェルト)

- 4) 参加費 参加費500円/人。交通は各会毎に。駐車場有り。単日での参加可。
- 5) 装備／食事 装備(宿泊用)：シュラフ ヘッドランプ 食器。食事／飲み物は各会毎。
- 6) 参加申込／締切 教育遭対委員会 青山へ11/23までに。 htrkt490@ybb.ne.jp
申込書は追って mail で送付。¹⁶
- 7) 問い合わせ先 教育遭対委員会 岡田： ken-ichi@f4.dion.ne.jp 080-4197-7700

県連たより

千葉県勤労者山岳連盟（千葉労山）

- ◎ 県連盟事務所
〒262-0033
千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18
レジデンス幕張台 101 号室
TEL・FAX： 043-306-1190
Eメール：rousanchiba@grape.plala.or.jp
JR総武線幕張本郷下車、海側 徒歩5分
(県連事務所に常駐者はいません)

- ◎ 千葉県連ホームページ
<http://www.cwaf.jp>
県連盟への問い合わせは、上記ホームページ
事務局への問い合わせまでお願いします。
- ◎ 加盟会会員の事故一報送付先
教遭委員長・岡田 賢一
ken-ichi@f4.dion.ne.jp
Fax：043-271-4704
事故一報は、全国連盟事務局にも必ず
送付の事。
- ◎ 「ちばニュース」原稿送付先
機関紙委員会・広木 国昭
danphiro@zpost.plala.or.jp
- ◎ 連盟費振込み先
郵便振替口座 00160-3-481509
千葉県勤労者山岳連盟
- ◎ 東日本大震災・支援金振込み先
口座番号：ゆうちょ銀行
00240-8-98419
加入者名：NPO法人 ちば労山ゆう
代表者 吉田 哲治
- ◎ その他、県連盟、全国連盟への、
ご意見・問い合わせなどは・広木まで

NPO法人「ちば労山ゆう」

- 「ちば労山ゆう」とは、東日本大震災を支援するために、千葉県勤労者山岳連盟を母体として活動を始めた、被災者支援NPO法人です。
- ◎ 「ちば労山ゆう」への入会は千葉県連盟ホームページから常時入会出来ます。
 - ・入会申し込みは
<http://www.cwaf.jp/contact/10-2/>
 - ・「ちば労山ゆう」への問合せは
<http://www.cwaf.jp/contact/09-3/>

 - ◎ 支援活動日のお知らせ
 - ・11月28日・29日
 - ・12月はお休みします。

 - ◎ 支援物資販売活動について
皆様のご協力により、交通費の補助に役立っています。
引き続きご協力をお願いします。
三陸・気仙沼直送の支援物資は
「おさしみわかめ」「さしみこんぶ」
「くきわかめ」「すき昆布」
「とろろこんぶ」
牡鹿半島の「塩蔵わかめ」
常時在庫あります。
宅配も、相談下さい。

支援物資に関する問い合わせは
下記アドレスに連絡を！

danphiro@zpost.plala.or.jp



県 連 活 動 予 定 表

11月		行事予定	12月		行事予定
1	日		1	火	
2	月		2	水	
3	火		3	木	
4	水		4	金	
5	木		5	土	事故防止交流集会
6	金		6	日	(さざんかの家)
7	土		7	月	
8	日		8	火	県連役員会
9	月		9	水	
10	火	県連役員会	10	木	
11	水		11	金	
12	木		12	土	
13	金		13	日	
14	土	自然保護セミナー	14	月	
15	日		15	火	
16	月		16	水	
17	火		17	木	県連理事会
18	水		18	金	
19	木	県連理事会	19	土	
20	金		20	日	
21	土		21	月	
22	日		22	火	
23	月		23	水	
24	火		24	木	
25	水		25	金	
26	木	50周年実行委員会	26	土	
27	金		27	日	
28	土	NPO支援活動	28	月	
29	日	〃	29	火	
30	月		30	水	
			31	木	

発行者：千葉県勤労者山岳連盟

〒261-0013 千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18

レジデンス幕張台 101号室

TEL・FAX 043-306-1190 (事務所に常駐者はいません)

発行責任者：吉田 哲治 編集責任者：広木 国昭

問い合わせ先：千葉県勤労者山岳連盟ホームページ 事務局への問い合わせ